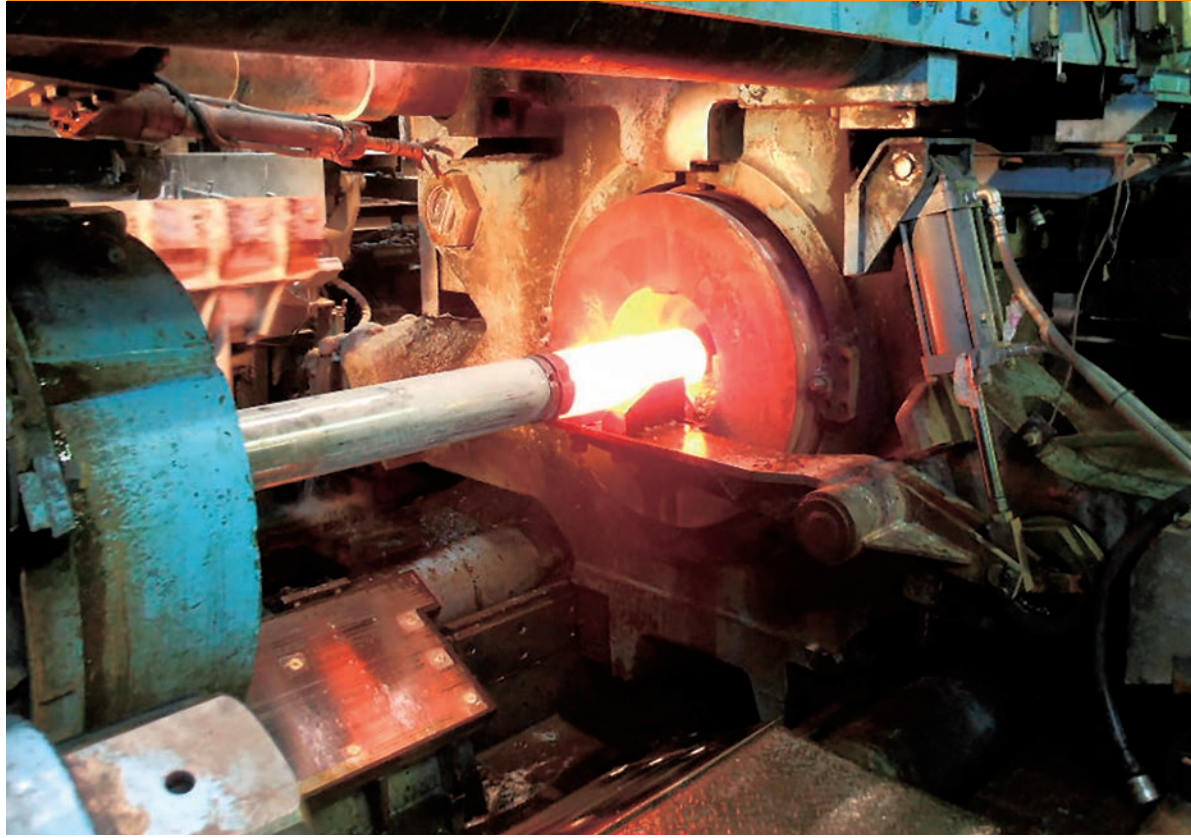
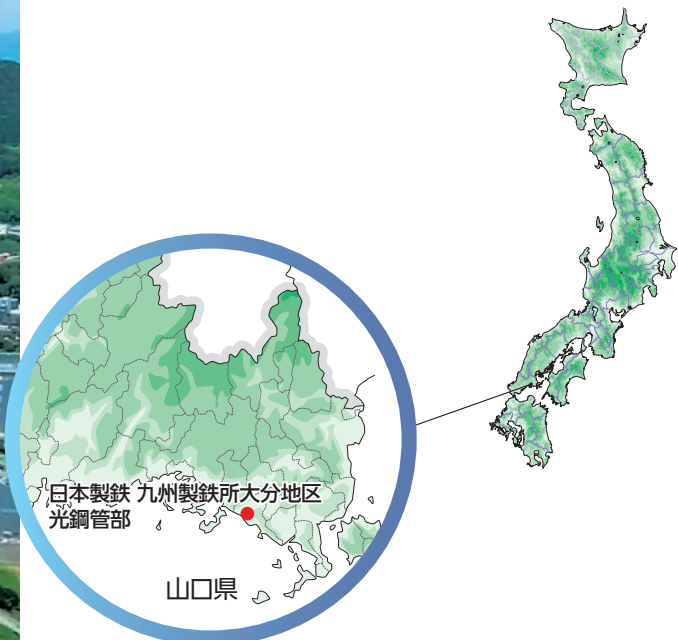




熱間押出製法

各製鉄所やグループ会社と連携し お客様のご要望に応える熱押形鋼をつくる 日本製鉄 九州製鉄所大分地区 光鋼管部

日本製鉄九州製鉄所大分地区光鋼管部は、瀬戸内海に面した風光明媚な環境の山口県光市に立地しています。美しい自然景観と調和しながら地域経済を支える産業として、熱押形鋼などを製造する光鋼管部のものづくりを紹介します。



山口県光市に息づく ものづくり

光鋼管部は1955年に八幡製鉄(株)の光製鉄所として山口県光市に発足したのが始まりです。かつて3万人の人たちが働いていた光海軍工廠の跡地に建設されました。正門から海岸に向かって約2キロメートルの直線道路が走っているのは、海軍工廠の滑走路の名残です。

光製鉄所は線材工場として立ち上がり、電縫鋼管、薄板、熱押形鋼、シームレス鋼管と生産品種を拡大してきました。2003年にステンレス部門が新日鉄住金ステンレス(株)(現在の日鉄ステンレス(株))の光製造所として分社化された際、鋼管部門が鋼管事業部光鋼管部として分離。11年には光鋼管部から大分製鉄所光鋼管工場に組織変更され、20年に現名称となりました。

現在の光鋼管部は電縫鋼管(中径管、小径管)、ステンレスシームレス鋼管、熱押形鋼の製造拠点としての役割を担い、直営と協力会社を合わせて約700人の従業員が働いています。生産した中径管は油田掘削に使用する油井管や原油を運ぶラインパイプ、小径管は自動車の足回り部品、ステンレスシームレス鋼管は石油化学プラントや半導体工場の配管、熱押形鋼は建築・土木の構造部材や機械部品など、用途や要求特性の異なる幅広い産業分野で用いられています。

アジア唯一の 熱押形鋼の製造拠点

光鋼管部は九州製鉄所大分地区や東日本製鉄所君津地区などから素材を調達し、他の製鉄所と連携しながら一味違う個性的なもののづくりを展開しています。その代表格が熱押形鋼です。

一般的に鉄鋼製品はダイナミックに大量生産されていますが、熱押形鋼は多品種少量生産で、複雑な形状や難加工材の形鋼の製造に適しています。複雑形状を一体成形でつくり出す金型設計や寸法精度の高い製品をつくり込む矯正技術など、熱押形鋼の製造工程に光鋼管部の技術やノウハウといったもののづくりの心が宿っています。

熱押形鋼はお客様側の切削や溶接の工数削減、溶接による熱変形を矯正する工程(ひずみ取り)の省略によって、短工期化や省力化、コストダウンに大きく貢献しています。また炭素鋼・低合金鋼だけでなく、耐腐食性の高いステンレス鋼での製造も可能です。構内に日鉄ステンレス山口製造所光エリアが立地しているため、グループ力も発揮しています。熱押形鋼は世界で欧米、日本でしか製造されておらず、アジアでは日本製鉄だけです。これからも光の地で培ってきたもののづくりの心に磨きをかけ、お客様のご要望に合わせた熱押形鋼を供給していきます。



矯正後の鋼材



熱間押出直後の鋼材



丸ビレット

